歴史講座は中止になったけど、魅力を伝えたいコーナー!!２弾！

魅力を持った地域の建物！ #歴史講座琴浦編

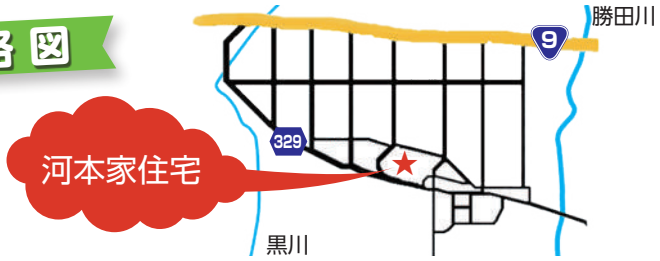
前号に引き続き、中止となった歴史講座で訪問予定だった地域の魅力をお届けします。今回は、琴浦編として、河本家住宅の魅力にせまります。講師の先生にご相談し紹介ページを作りましたので、ぜひ、紙面でお楽しみください！

国指定重要文化財 河本家住宅

河本家住宅 主屋

河本家住宅オモテ（北）庭

略図



見学について

春・秋の特別公開以外にも見学可能です。

現在もお住まいの住宅のため、詳しくは下記の琴浦町教育委員会社会教育課までお問い合わせください。

河本家住宅

河本家は山陰の戦国武将尼子氏の家臣であった弥兵衛隆任を初代とし、寛文年間（1661～1673）に五代弥三右衛門が現在の琴浦町篦津に移り住み、以後代々大庄屋などの要職を務めました。主屋は棟札から貞享５（1688）年に建てられたことが明らかになっており、江戸時代中期の山陰地方の農家住宅形式をよく伝える大型民家です。

河本家住宅ここに注目＜屋敷構え＞

河本家住宅は旧伯耆往来に北面し、敷地正面東寄りに門及び納屋を構え、門の奥に主屋が南面して建てられています。

主屋は東側の居室部と西側の客間部からなり、さらに西側に付属屋を介して離れがあります。主屋の背後には庭を囲んで東から味噌蔵及び米蔵、（元）米蔵、土蔵、新蔵が建ち並び、土蔵の北側には大工小屋が建ちます。客間部の南北に配された庭も含め、河本家に伝わる嘉永７（1854）年に描かれた家相図とよく符合し、江戸時代の豪農の屋敷構えをよく留めています。

河本家住宅　繊細なこだわりにも注目

接客のための客間部には、牡丹唐草の透彫欄間や、付書院の蔦模様の透彫欄間等の洗練された意匠が見られます。また南北に配した庭も、本地域屈指の豪農の近世庭園の一つとして価値が高いほか、限られた敷地において水路をうまく活用した池の構成も巧みです。

琴浦町教育委員会社会教育課 野口さんより一言

河本家住宅では平成30年度から保存修理、活用整備事業を進めています。また琴浦町では山陰地方唯一の国特別史跡斎尾廃寺跡をはじめ、町内文化財の調査や保存活用に取り組んでいます。

平成28年に国史跡となった赤崎台場跡の昭和30年頃までの写真をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

協力 琴浦町教育委員会社会教育課 TEL 0858-52-1161 FAX 0858-52-1122

魅力を持った地域の建物！ ＃講座まとめ編

倉吉編、琴浦編と紹介してきましたが、特定の一軒だけではなく地域全体での注目ポイントはたくさんあります。
鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課の玉木さんに、講座で教えていただく予定だったことを紹介していただきます。

建物は、その土地の条件や用途などによって配置や構造が異なっています。このため、伝統的な建物をよく観察していくと、地域によって特徴が見えてきます。

所子集落の様子（大山町）

本通り沿いの主屋の様子（倉吉市）

玉川沿いの土蔵の様子（倉吉市）

例えば**農村**では、琴浦町の河本家住宅のように、門をくぐり敷地に入ると、中ほどに主屋（おもや）があり、その周辺に蔵などの付属屋が建てられているのが一般的です。伝統的建造物群保存地区となっている大山町の所子（ところご）集落では、こうした状況がよく残っており、江戸時代以降の伝統的な農村集落の様子を知ることができます。

町家に目を向けると、農村とは違った景観を見ることができます。町家は幅が狭く奥行きの長い短冊形の敷地といった土地の制約を受けるため、通りに面した場所に店舗を兼ねた主屋、その奥に離れや土蔵（どぞう）といった付属屋が建てられています。倉吉市の打吹玉川伝統的建造物群保存地区ではこうした伝統的な町家が良く残っており、本通り沿いに主屋、玉川沿いに土蔵が建ち並ぶ特徴的な景観を見ることができます。

建物は技術の進歩、生活様式や社会情勢などによって変化

農村では、技術の進展によって、より大きな建物が建てられるようになり、河本家住宅のような大型で複数の部屋のある主屋が建てられるようになります。この部屋はそれぞれ接しており、部屋を通り抜けなければ移動できませんでした。しかし、近代になると西洋化の影響を受け変化していき、建物の中ほどに廊下がつくようになります。この廊下を介して部屋を行き来できるようになり、次第に部屋の独立化が進んでいくようになります。この中廊下（なかろうか）のある建物は、飛龍閣（ひりゅうかく）のような公共建築では明治期から見られますが、一般的な民家では大正期に入ってから普及していったようです。

このほか、町家でよく見られる2階建ての建物について見てみると、江戸時代まで厨子（つし）二階と呼ばれる背の低い屋根裏部屋のようなものが主流でしたが、明治以降、徐々に天井が高くなり、快適に居住できる部屋へと変化していきます。打吹玉川伝統的建造物群保存地区の町家では、厨子二階から天井の高い二階建ての建物があり、建物の変遷を見ることができます。

まとめ

建物は地域や時代等によって違いがあり、それを丹念に見ていくと、これまで気づいていなかった地域の特徴が見えてきます。皆さんも建物から様々な地域の特徴を見つけ、その土地の魅力を発見してみてください。

鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課　玉木さんより一言

鳥取県には魅力的な文化財が多くあります。モノを鑑賞することでも十分楽しむことができますが、歴史的な流れや時代背景などを知ることによって、新たな発見があると思います。

協力 鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課 TEL 0857-26-7760 FAX 0857-26-8128

ご意見・ご感想、こんな情報も知りたい等のご希望もお聞かせください。

県立生涯学習センター TEL 0857-21-2331 FAX 0857-21-2267